

柏崎市に関する学生の意識調査 -3つの調査結果から-

経済学部 経済経営学科 2年 安達七都 中村美架 田川さくら
(指導教員 郷香野子)

要約

本報告は、新潟産業大学経済学部経営学科の「ビジネス演習」の授業において実施された個人の調査研究のうち、3つをとりあげて紹介する。それぞれの調査は、新潟産業大学の大学生男女に対して実施された(表 1)。

表1 調査の概要

	調査 1: 柏崎市への満足度調査	調査 2: 恋人岬に調査	調査 3: 雨の日の過ごし方調査
・時期:	2017年11月	2017年12月	2017年12月
・対象:	新潟産業大学の学生男女	新潟産業大学の学生男女	新潟産業大学の学生男女
・方法:	WEB調査	WEB調査	WEB調査
・回収数:	34名(男性23名、女性11名)	34名(男性20名、女性14名)	21名(男性11名、女性9名)

1. 調査1: 柏崎市への満足度調査

1.1 調査背景と目的(調査1)

柏崎の世帯人口は、18年以降は年々減少傾向にある(柏崎市資料 a)。特に、若者(20代)の比率が低い。10代よりも20代の方が減少していることから、就職や進学等による市外や他県への流出が要因として考えられる。一方で、柏崎市が行った調査によると、柏崎市の不足点として上位に「働く場がない」「若者が集う場がない」などがあげられる(柏崎市資料 b)。このため、若者(ここでは大学生)の柏崎市への満足度や評価、柏崎市に希望する施策を調査し、若者が柏崎市をより好むための、柏崎市に定住してもらうための提言を行う。

1.2 調査結果(調査1)

(1) 若者(大学生)は柏崎市に満足(評価)しているか

柏崎市に満足しているかどうかについて「5:非常にそう思う~1:そう思わない」の5件法で尋ねた。これをみると、全体としてはB2B(「2:あまりそう思わない」「1:そう思わない」の合計)の満足をしていない割合が高いことがわかる(図 1)。特に、柏崎市出身者は満足していない割合が63%と柏崎市以外の出身者よりも高くなっている。さらに、柏崎市が良い街かどうかについても尋ね、あわせて誰にとって良い街かといった設問も尋ねた。この項目では、柏崎市出身の方が評価していない割合が高いことがわかる(B2B 柏崎

市出身:54%、柏崎市以外の出身:17%)。一方で、子育て世代(30-50代)や高齢世代(60代以上)にとっては良い街だと評価する割合は若者よりも高い値であった。つまり、子育て世代、高齢者には評価できるが、若者に目を向けていないという印象を持っている。

(2) 「若者が柏崎市に集まるための施策」は何か

これらを踏まえて、若者(大学生)が思う「若者が柏崎市に集まるための施策」を複数回答で回答してもらった。この結果、全体では、アミューズメント施設(55%)やカフェ(55%)、名産ができる(53%)が上位にあげられていた。特に、柏崎市出身者はアミューズメント施設やカフェ、映画の舞台など自分たちが楽しめる施設に期待し、柏崎市以外出身者:名産ができる、柏崎市出身の著名人、アンテナショップなど外から柏崎市が注目される施策に期待していることがわかった。

1.3 提言(調査1)

以上の知見から、駅の待合室や空き屋を活用した若者が集えるオープンスペースの拡充、首都圏での「町村居酒屋」の展開といった柏崎市のPR方法を提言した。

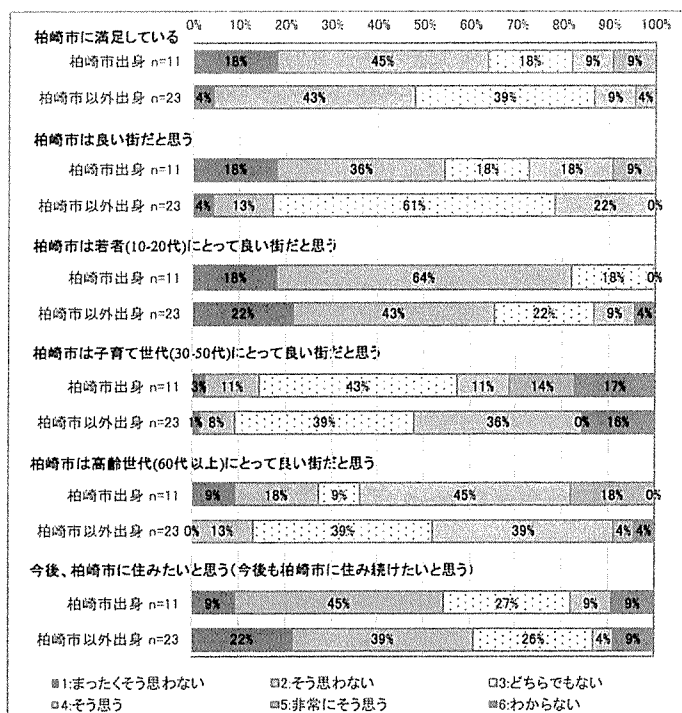


図1 若者の柏崎市への満足度と評価

2. 調査 2: 恋人岬に調査

2.1 調査背景と目的(調査 2)

柏崎市の恋愛パワースポットとされている恋人岬だが、調査者は天候や季節によって来客数がまばらであると感じている。そこで、いつ訪れるのかを調査し、一年を通して訪れる施設になるような提言を行う。

2.2 調査結果(調査 2)

(1) 恋人岬に行く時期はいつか

まず、恋人岬の認知度と訪問経験を尋ねた。男女別に見ると認知度は女性 100%、男性 90%とほとんどの人が知っているものの、訪問経験では女性が 79%、男性 55%と男性は 5 割程度にとどまった。次に、恋人岬に行く時期を尋ねた。この結果春(女性:36%、男性:40%)や夏(女性:43%、男性:40%)の暖かい時期に行きたいと思う人が圧倒的に多い(図 2)。しかし、秋(女性:21%、男性:10%)や冬(女性:0%、男性:10%)の寒い時期に行きたいと思う人は少ない結果であった。

(2) 恋人岬には何が必要か

次に恋人岬に行きたくなる施策を回答してもらった。この結果、男女ともにイルミネーション(女性:55%、男性:50%)とカフェ(女性:43%、男性:45%)の要望が多かった(図 3)。さらにフリーアンサーの回答では、恋人みくじやブランコ、インスタバエスポットの設置などがあげられた。

2.3 提言(調査 2)

以上の結果から、1年を通して恋人岬に訪れたくなる施策として、大分県豊後高田市の海岸線沿いのロマンチックなスポットを結ぶ恋叶ロードを例にあげて、柏崎市への展開方法を提案した。

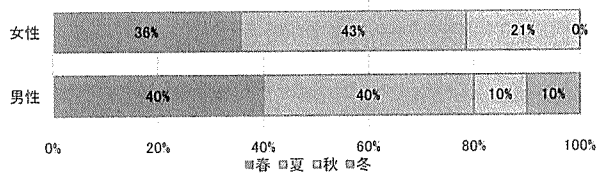


図 2 恋人岬に行く時期

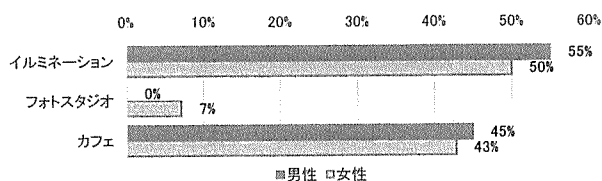


図 3 恋人岬への要望

3. 調査 3: 雨の日の過ごし方調査

3.1 調査背景と目的(調査 3)

調査者は大学生になることを機に長野県から柏崎市に住む始め、柏崎市は雨が降る日が多いと感じていた。実際、2017年に柏崎市に雨・雪が降った日は 225 日であり、柏崎市は長野県や東京都と比べると圧倒的に雨・雪の日の割合が高い。雨の日は、外出をためらうことや訪問先を変更することもあると考えられることから、若者(大学生)の雨の日の過ごし方を調査し、雨の日にこそ出かけたいたいと思える施策を提案する。

3.2 調査結果(調査 3)

(1) 雨の日をどのように過ごしているのか

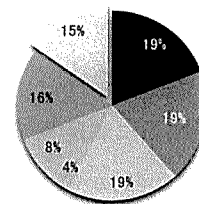
雨の日をどのように過ごしているかを尋ねたところ、86%の人が雨の日は家で過ごすと回答した。特に、85%の人が雨を理由に予定を変更すると回答した(図 4)。詳しくみると、約 4 割の人が、柏崎市内から柏崎市外、または家で過ごす予定を変更していることが分かった。この理由として、柏崎市には、雨の日に行く場所がないことが考えられる。

(2) 雨の日でも柏崎市に出かけたいたいと思える特典は何か

次いで、雨の日でも出かけたくなる特典を尋ねたところ、過半数がサービスと回答した。

3.3 提言(調査 3)

この結果を踏まえて、「雨の日 = 柏崎」となるような 2 つの提言を行なった。ひとつ目は、柏崎市を雨の日サービスの市にするものである。2 つ目としてボルダリング、スカッシュ、バブルサッカー、スカックラインなど室内施設の設置を提案した。



■市から市 ■市から市外 ■市から家 ■市外から市 ■市外から市外 ■市外から家 変更なし

図 4 雨の日の予定の変更

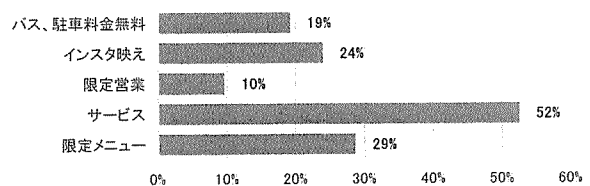


図 5 雨の日でも出かけたくなる特典

引用文献

- ・柏崎市 HP「柏崎市の人口動向及び将来人口の推計」
- ・柏崎市 HP「柏崎市まちづくり市民アンケート」
- ・気象庁 HP(<http://www.data.jma.go.jp/>)
- ・大分県豊後高田市 HP(<http://www.city.bungotakada.oita.jp/>)